

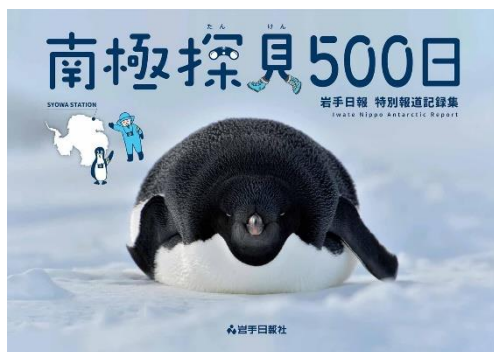


教振 講演会「南極探検500日」

1月24日（金）お知らせしていた標記講演会を実施しました。講演会には、実践区会長工藤様、5・6年生児童、保護者、地域の皆様に参加いただきました。

講師は、岩手日報社菊池健生様で大変貴重なお話でした。2021年10月～2023年3月まで、南極基地観測63次越冬隊に同行した方です。昭和基地や南極での生活、南極の生き物について教えていただきました。南極の氷が4000メートルにもなること、皇帝ペンギンの身長が130センチメートルもあることなど、驚きを隠せないようでした。また、「ブリザード」や「マイナス45度」という気温に代表される大自然の厳しさ。「オーロラ」や「白夜」「極夜」といった美しさ等も新しい発見だったことでしょう。中にはこのようなお話がありました。「昭和基地は一つの社会です。観測をする人や、食事を作る人、修理をする人など、そのどれもが欠けてしまっても生活が成り立たません。世の中で誰もが大切な役割があります。」というような趣旨のお話をなさいました。また、「何もないければ工夫するしかありません。失敗してもまたチャレンジすればいいのです。」というような趣旨のお話もありました。大切な考え方を教えていただいたと思います。

子ども達がどのようなことを心に残してくれているのか、感じたことからどのような行動にあらわれるのかこれからが楽しみです。



【講演会の様子】

左記の書籍をサイン入りで学校に寄贈いただきました。今後図書館の蔵書として子ども達に手に取ってほしいと思っています。

興味のある方は、お読みいただきお子さんと感想を語り合うこともいいかもしれませんね。この一冊から新たな疑問や目指したいものが生まれるかもしれません。

余談ですが…校長室にはナント！南極の石があります。菊池さんも感激し、スナップ写真を撮っていきました。

児童会認証式

1月27日、令和7年度に向けた児童会の引継ぎを行いました。これまで全校を引っ張ってきた執行部や各委員会の委員長から、4・5年生の新しい役員への引継ぎです。

現役員一人一人から自分たちが頑張ってきたことや、後輩へ期待することが述べられました。その中にはこのような言葉がありました。「失敗してもいいので…」さすがは6年生です。自分たちがよいと考えたことに向かって、たとえ初めからうまくいかなくても、できるまでやればいいということです。思えばこの1年、新しい取り組みが生まれました。取り組み方を変えたあいさつ運動、ゲーム集会、全校鬼ごっこ、縄跳びチャレンジ等、回を重ねるごとに進め方がうまくなっていきました。活動の苦労から生まれた実感のこもった言葉だったのだと思います。また、新役員一人一人が、「こんな学校にしたい」という豊富が述べられました。その中には「工夫して」「新しい」という言葉がありました。上級生の姿を見てきたからこそ出てきた言葉だと感じました。自分たちにとって今必要なことに向かうために、これまでにとらわれず、どうしたらうまくいくかを工夫し、新たな活動を生み出していこうとする気持ちは、大変すばらしいと思っています。このような姿に成長している子供たちを嬉しく思っています。このことは、式の中の私の話の中で伝えました。

思いを実現するべく、自分たちなりの活動が展開できるよう職員一同で支えていきます。



ある日の出来事から

お願いします！

☆ ある朝のことです。高学年の子どもが「校長先生、大変だったんです。昨日授業でわからないことがあって、悔しかったので、家で何回も考えたんですよ。泣くほど悔しかったんです。でも、何回もやっているうちにわかったんです。」と話すのです。「よく諦めないでやってすごいね。何かコツを見つけたの？」と尋ねると見つけたやり方を説明してくれました。そのやり方について改めて褒めました。悔しい思いをして、自分で解決に向かう姿を大変うれしく思いました。この力さえあれば、この先自分の力をますます伸ばしていけると思います。



保護者の皆様にはメールでもお知らせしましたが、学校前の国道で車両事故がありました。押しボタン信号の横断歩道のところで

要因は、降雪による信号機の見にくさで、信号が変わったことに気づかず、横断している子ども達を見つけて慌てたものの路面の凍結によって、操作を誤り別の車両に衝突したものだと思われます。幸い子ども達への被害がなかったことが不幸中の幸いでした。

子ども達には改めて横断時の注意点を指導いたしました。まだまだ、路面凍結や視界不良などの状況が懸念されます。

ご家庭でも改めてご指導いただけますと幸いです。

